

学校教育目標

一人一人の個性の開花

～自分を見つめ、自分を生かす～

県・市教育方針

〈義務教育課取組の方向〉
社会に開かれた教育課程の実現
「豊かな心」の育成
「確かな学力」の育成
就学前教育の充実
環境教育の推進
〈山鹿市学校教育指導の重点〉
日本一の学園都市「やまが」を目指したさらなる校務改革。授業改革、中学校の学園化の推進
〈指導の重点〉
1 命を輝かせる教育
2 「志」を育てる教育
3 「生き抜く力」を育む教育

目指す学校像

学校は、子どもたちをいかに輝く存在にできるかを考え、「教育実践を創造する場」である
学校は、感動を共有する場であり、「子どもたちの夢の実現のための学びの場」である

「せせらぎの人」「清流の人」づくり

山間の町、鹿北を流れる清流の一滴が、やがては大河となり、ついには大海原へと至る。清流の一滴である鹿北の子どもたち一人一人には、たくさんの可能性が秘められている。その可能性の扉を自ら開き、生かしていく力をつけていく。

小中9年間の「学び」でめざす姿

- 地域のために積極的に行動できる人
- 自ら課題を見つけ、話し合い、解決に向けて自主的に行動できる人
- 意欲的に学ぶ姿勢を身につけている人
- 自分の体力や健康に関心を持ち、積極的に運動に親しむことができる人
- かしこく、ほがらかに、くふうできる人

社会人基礎力の育成

- 【前に踏み出す力】 主体性・働きかけ力・実行力
- 【考え抜く力】 課題発見力・計画力・創造力
- 【チームで働く力】 発進力・傾聴力・柔軟性・状況判断力・規律性
- 【生活するための力】 基礎知識・基礎体力・学ぶ意欲・耐性

校訓

己を重んじ
己を伸ばす
友を敬し
友に学ぶ

研究目標

インクルーシブ教育システムを土台とした9年間の連続した「学び」の確立
～「4・3・2制」の教育課程編成による発達段階に応じた系統的指導と共通実践を通して～

職員の意識改革

子どもたちの頑張りが見える、喜びや悩みを共有し、責任転嫁しない、あきらめない教職員
一人一人が魅力ある生き方ができる教職員
指導の基本は「納得」、納得の連続が「信頼」。徹底して納得できる指導に努める教職員

学習指導要領に示された資質・能力の育成

○知識・技能の習得 ○思考力・判断力・表現力の等の育成 ○学びに向かう力・人間性等

縦の連携(保小中)

- 432の教育課程編成
- 乗り入れ指導実施
- 各期の活動推進
- 9年間の全体計画作成

横の連携(地域)

- 地域学校協働活動
- 地域行事への主体的参加
- 学校運営協議会活性化

人としての基礎基本

- なかまづくり推進
- 話し合い活動充実
- 生徒会活動活性化
- 行事への参画

学力の基礎基本

- UDの授業力向上
- 学習過程スタンダード実践
- 家庭学習の充実
- 理数教科指導法改善

体力の基礎基本

- 社会体育と部活動連携
- 小中合同体力作り
- 鹿北の運動環境整備
- 部活動の学びを活かす

インクルーシブ教育システム構築

- 基礎的環境整備 ○合理的配慮 ○個別支援の充実 ○サポート教室 ○移行支援
- 鹿北版子ども支援シート ○鹿北版UD化チェックリスト ○関係機関との連携
- すまいる連絡会 ○家庭との連携